

2. 東京都児童相談所における PCIT の実践について

東京都児童相談所における PCITの実践



東京都児童相談センター
小平 かやの

PCIT

Parent-Child Interaction Therapy
(親子相互交流療法)

1974年にフロリダ大学のSheila Eyberg博士により考案された、行動障害のある児童とその親を対象にしたオペラント条件付けモデルを使用した療法である。

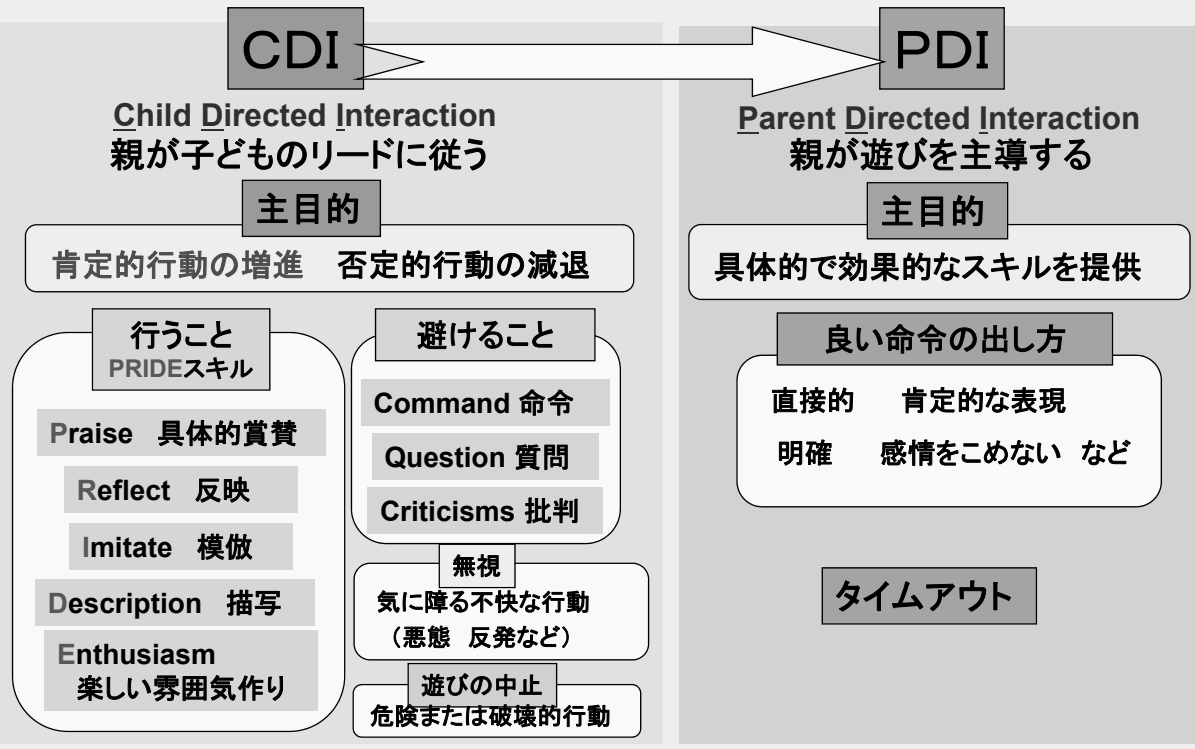
PCITの大きな特徴は、ライブコーチングであり、養育者とその子どもに対して、トランシーバーを用いて、部屋の外にいる治療者が直接養育者に子どもへの対応を指導することにより、養育者と子ども双方の行動変化が可能となる。

アメリカでは、現在、被虐待児童とその養育者も治療の対象となっており、2004年のChaffinらの報告でも、治療施行850日後の時点で一般的な地域での介入に比べ、PCIT施行例は、有意に身体的虐待再開率が低いとされている。



構成

PCITは、前半の子どもの関係強化が目的の子ども指向相互交流(CDI)と、後半の子どもの行動管理が目的の親指向相互交流(PDI)の2段階で構成される



実施内容

- ・対象年齢は最適2~7歳
場合により 12歳まで可
禁忌のケースは 性的虐待の加害者が養育者の場合
- ・1回のセッションは約60~90分間
- ・セッションの間隔は原則的には1週間おきだが、ケースにより異なる (児童相談所では数週間おきの場合も多い)
- ・宿題として 毎日5分間「特別な遊びの時間」
- ・親への配布資料も 各セッションで決められている
「PCIT療法とは」「親は子どものモデルである」
「サポートを得る」「良い命令を出す方法」など

PCITにおけるアセスメントツール

養育者が記入 養育者の子どもに対する評価がわかる

ECBI (Eyberg Child Behavior Inventory)

子どもの言動を1(ない)~7(いつも)段階で記入。全36項目。
合計点数で評価。最低36点 最高262点 114点以下が治療目標

治療者が採点 養育者のスキルを治療者が採点する

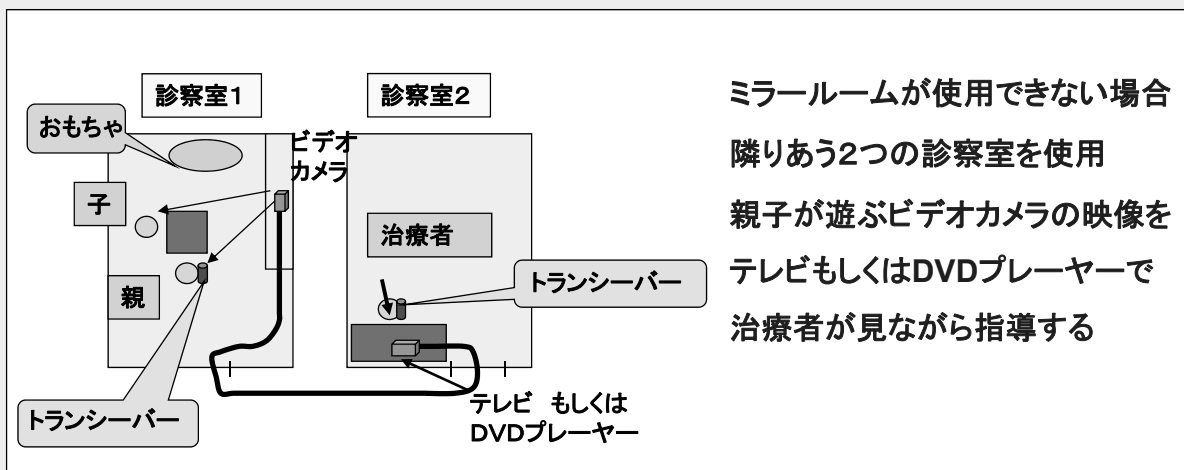
DPICS (Dyadic Parent-Child Interaction Coding System)

CDIコーディングスキル: 毎回コーチングの前5分間で採点

PDIコーディングスキル: PDIに入ったら適切な命令の出し方を採点

III: 導入時 PDI終了時 フォローアップ時に採点する

実際の設定

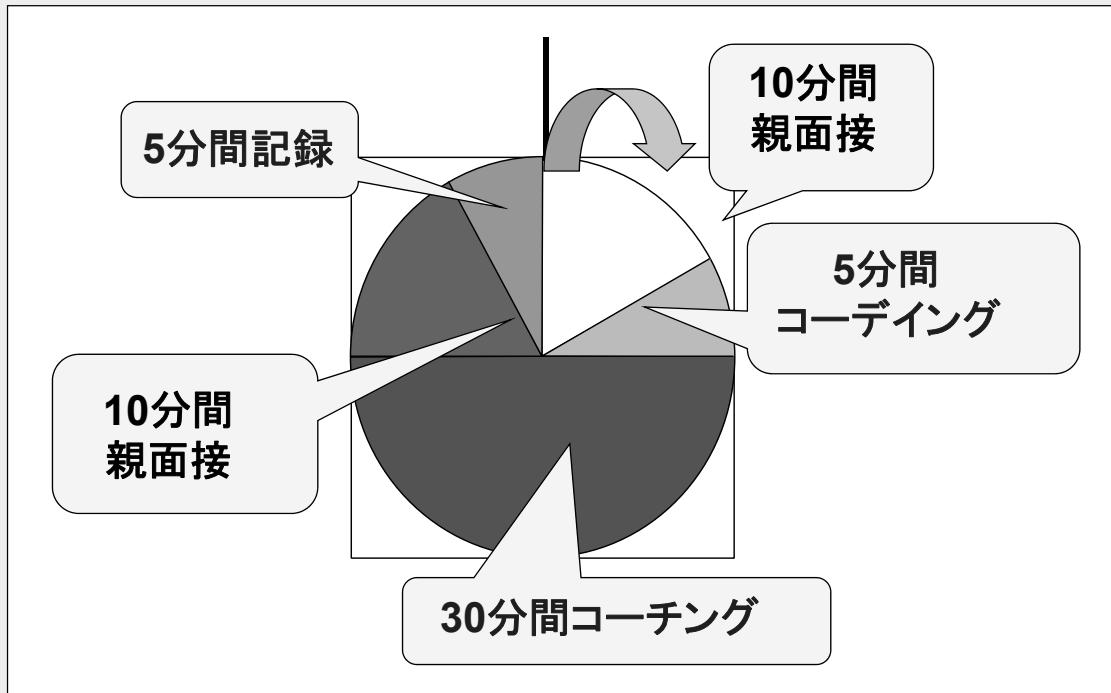


推奨されるおもちゃ

組み立てて遊ぶ創造的なおもちゃ

積み木 レゴブロック デュプロ ポテトヘッド 粘土 塗り絵
ままごとセット 人形つきドールハウス クレヨン ステンシル 折り紙

セッションの構成



PCIT導入の流れ

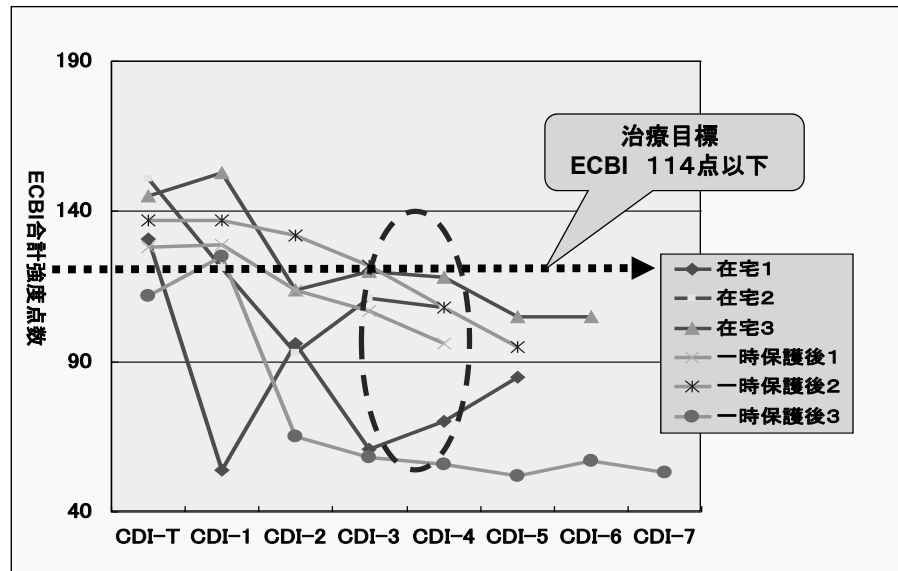
2005年 東京女子医科大学附属女性生涯健康センター
加茂登志子教授らが シンシナティ子ども病院
Trauma Treatment Training Center (TTTC)にて
ワークショップに参加

2008年 2009年に日本で加茂教授らが ワークショップ開催
東京都児童相談所関係では 2009年に5名が
ワークショップに参加。

児童相談所が関与する子ども及び養育者に対して、有効な
治療法と考え、2011年4月より児童相談センターにて導入。
中央児童相談所の役割を考慮し、2011年度は、児童相談所
におけるPCITのモデルケースとして、在宅例、一時保護例、
里親委託例、施設入所例など、多様なケースに実施し、
今後、適応とすべきケースを検討することとした。
2012年度以降は、地域児相での実践を拡大している。

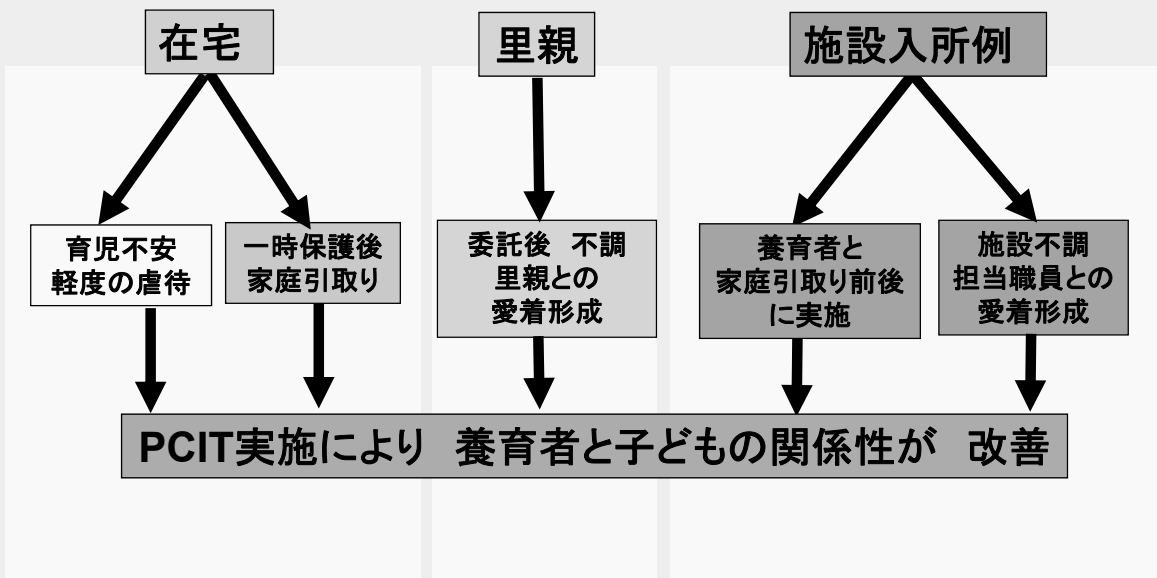
2011年度の実施結果

- 意欲のある養育者では、CDIコーチング3～4回目で「養育が楽になった」との発言が多く認められ、同時期にECBI合計点数の低下が見られた。
- 自らの生育歴で褒められた経験のない養育者では、PCITの対応法は明確でわかりやすく、更にライブコーチングで、養育者自身も、治療者に褒められる経験が出来ることが、治療的であった。



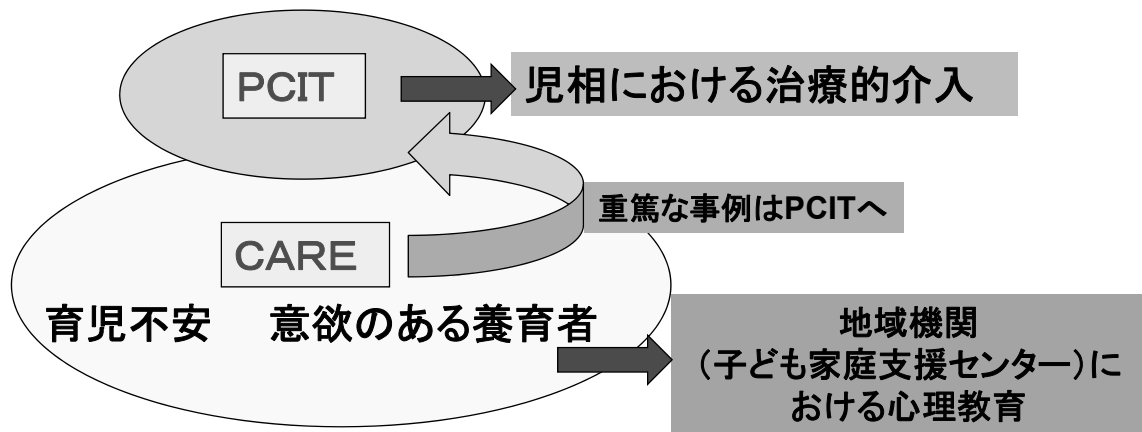
東京都児童相談所におけるPCIT実践

各地域児童相談所では 以下のような対象に実践を重ねている



PCITの今後の課題

PCITは 有効な治療法だが、人手 時間 場所が必要
⇒ 育児不安の軽症例や 意欲的な養育者の場合に
CAREを用いることができれば 効率的であり
重篤な事例のスクリーニングにもなる



PCITとCARE

PCIT: 親子相互交流療法

対象: 行動の問題を持つ子どもと養育者
(養育者=実親 里親 施設職員など)

実施時間: 1回60~90分 合計約15回

個別で 子どもと養育者にライブコーチングによる治療

CARE: PCIT簡易版

対象: 子どもと接する大人全般

(実親 里親 施設職員 保育士など)

実施時間: 専門職には通常3時間~3時間半 1回のみ

養育者の場合 2~3回に分けることもある

専門職の対象者数名から数十名の大人のグループ

養育者には 個別で実施する場合もある

CARE

有効性の示されているPCITの中心概念を少ない回数で学べる親や里親などの養育者に加えて、直接もしくは間接に子どもに影響を及ぼしうる大人全般を対象にする。

⇒大人のグループ もしくは個別の親指導

内容：講義、ロールプレイなどを用いながら、遊び場面などを設定した大人に向けたトレーニング

前半：子どものリードについていく際に大切なスキルを学習
使いたい3つのスキル(3P) = 具体的賞賛 繰り返し 行動の説明
減らしたい3つのスキル(3K) = 質問 命令 批判
選択的に注目しないスキル = 無視など

後半：適切で効果的な指示の出し方を学習
壊れたレコード 適切な指示の出し方

まとめ

- ・虐待事例におけるPCITの場合、他の治療的介入に抵抗を示す養育者でも、トランシーバーを介した助言は受け入れやすくPCITの構造が効果的であるほか、養育者がライブコーチングで治療者に褒められる経験を重ねることが治療的であった。
- ・子どもは、海外の報告にあるように、日常の問題行動が軽減すると共に、遊びで言語表現が増え、集中が持続する様子が観察された。
- ・児童相談所では、ビデオで多職種が、親子の関係性の変化を確認できるPCITの利点を生かし、ケースワークとの連携が可能と思われた。
- ・今後の課題としては、人手や時間、場所を要する治療法であるため、適応事例や導入時期、PCITの簡易版であるCAREの併用などを検討していく必要があると考えている。

